

社会科学学習指導案

4年1組 30名
指導者 松村 久美

単元名 交通事故から人々を守るために

単元の考察

1 児童の実態 略

2 教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の目標の(1)(3)、内容の(4)を受けて設定したものである。交通事故は大きな社会問題であり、子どもたちにとっても身近な問題である。交通事故にあえば、心や身体に大きな傷を負うのはもちろんのこと、生命の危険にもさらされる。しかし、その交通事故に対して、子どもたちの意識は決して高いとはいえない。交通事故の危険から自分たちを守っている様々な活動に対しても同様である。

そこで本単元では、まず、毎年たくさんの尊い命が交通事故で失われていることや、身近なところでも交通死亡事故が起きていることに触れ、交通事故が自分にも起こりうる問題であることをとらえさせる。

次に、「交通事故が起きたときの緊急体制」「交通安全を守るために活動している人々」「交通安全を守るための施設」を取り上げ、自分の安全が多く機関や地域の人々の工夫や努力、協力によって支えられていることをとらえさせる。見学や調査などの活動を取り入れ、自分の目で確かめながら学んだり、地域の人々の思いや願いに触れたりすることは、自分の安全な生活が、多くの機関や地域の人々によって支えられていることを実感するうえで、価値があると考えられる。

さらに、多くの機関や地域の人々に支えられている自分が、今度は、地域の安全のためにできることを考える活動を取り入れ、地域の一員としての自覚を高めていく。

このような活動を通して、子ども一人一人が、自分の安全が多くの人々によって支えられていることをとらえ、自分も地域社会の一員として、交通安全に関心をもって生活していこうとする態度を身に付けることができると考え、本単元を設定した。

3 指導方針

交通事故から人々を守るための活動について、子ども一人一人が関心を持ち、追究方法を考えたり、自分の目で確かめながら解決したりできるよう、問題解決的な学習を行う。

また、交通事故から人々を守るための活動を、自分の生活とのかかわりにとらえることができるように、各過程において、かかわり図から自分の生活について考える活動を取り入れる。かかわり図とは、交通安全守るための活動と自分の生活とのかかわりや、交通安全を守る人々や機関どうしのかかわり(協力)を表した図である。かかわり図に表すことによって、子ども一人一人の思考過程が明らかになり、思考が整理される。そして、かかわり図をもとに自分の生活について考えることで、交通安全を守るための人々の活動と、自分の生活とのかかわりについて、自分なりの新しい見方ができるようにしていきたい。

つかむ過程では

学習課題が切実感を伴ったものになるよう、交通事故を自分の問題としてとらえさせ、地域の交通環境への関心を高める。

自分の安全な生活が、いろいろな機関や人々、施設によって守られていることに気付けるよう、交通事故から自分を守っているものを予想してかかわり図に表し、そこから、自分の生活について考える活動を取り入れる。

観点をもった見学や調査ができるよう、疑問点や調べたいことをあらかじめはっきりさせておく。

追究する過程では

「交通事故が起きたときの緊急体制」「交通安全を守るために活動している人々」「交通安全を守るための施設」を取り上げ、子どもが自分の目で確かめながら解決していけるよう、見学や調査などの体験的な活動を取り入れる。

疑問点や調べたいことが追究できるよう、学習の意図を伝えるなど、見学先やゲストティーチャーとの事前の打合わせを十分に行う。

様々な機関や人々の工夫や努力、協力が自分の安全な生活を守っていることをとらえられるように、調べて分かったことや人々の思いや願いを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れる。

深める過程では

様々な機関や人々の工夫や努力、協力によって自分の安全が守られていることを実感した子どもたちが、今度は、地域の安全のために自ら働きかけようとする気持ちを高めていけるように、これまでの学習を振り返り、子どもの思考の流れを大切に学習を進めていく。

地域の安全のためにできることを子ども一人一人が考えた後、多様な考えを出し合う場を設け、互いに共感したり認め合ったりする中で、地域社会の一員としての自覚を高めていく。

交通事故から人々を守るために活動している機関や人々と自分の安全な生活には、双方向のかかわりがあることをとらえられるように、地域のために自分ができること表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を取り入れる。

単元の目標

略

単元の評価規準

略

単元の指導計画（全10時間予定）

過程	時間	主な学習活動・内容	形態	支援及び留意点	評価項目 (観点・評価方法)
つ	1	見通し1 地域における交通事故の実態を知る。 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">わたしたちを交通事故から守っているものについて調べよう</div> 交通事故から自分を守っているものを予想してかかわり図に表す。	個人 一斉	交通事故を自分の問題としてとらえられるように、具体的な資料を用いて、身近な交通死亡事故例や地域の交通事故の数の移り変わりを示す。 交通事故や、交通事故から人々を守るための活動について関心を高めた子どもたちの意識を、課題に結びつける。 交通安全の危険から自分を守っている機関や人々、それらの活動、また施設について予想し、自分の考えを明確にできるよう、かかわり図に表す活動を取り入れる。	交通安全についての関心を高めている。(関・観察)

	予想した機関や人々との関係で、自分の生活について考える。		予想を表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を行い、自分の安全が、いろいろな機関や人々、施設によって守られていることに気付くようにする。	予想を表したかかわり図から、自分の安全が、いろいろな機関や人々、施設によって守られていることに気付く。(思・かかわり図、観察)
2	交通事故が起こったときの緊急体制、交通事故から人々を守る活動や施設についての疑問点や調べたいことをはっきりさせる。	一斉 個人 一斉	疑問点や調べたいことが明確にできるように、調べカードを活用する。疑問点や調べたいことを記入して、見学や調査の際の観点になるようにする。	交通事故が起こったときの緊急体制、交通事故から人々を守るための活動や施設についての疑問点や調べたいことを明確にして、自分なりの調べる観点をはっきりさせている。(思・調べカード)
3	交通事故が起こったときの緊急体制や、交通事故から人々を守るための警察の活動について、調べる。	個人	自分の目で確かめながら主体的に追究していけるように、見学やインタビューの活動を取り入れる。その際、学習の意図を伝えるなど、事前の打ち合わせを十分に行う。見学や聞き取りの活動で分かったことや気付いたことを記入できるよう、調べカードを活用する。調べて分かったことを、かかわり図に付け足しておく。	交通事故が起こったときの緊急体制や交通事故から人々を守るための警察の活動について意欲的に調べている。(関・観察)
4	交通安全を守るために活動している人々について調べる。	一斉 個人	安全を守る人の思いや願いに直接触れることができるよう、町の交通対策係の方など、警察以外の人をゲストティーチャーとして招き、話をしていただく。聞き取りの活動で分かったことや気付いたことを記入できるよう、調べカードを活用する。調べて分かったことを、かかわり図に付け足しておく。	交通安全を守る活動についての話を聞き、大切なことを落とさずに記録している。(技・調べカード)
5	交通安全を守るために設置されている看板や標識、信号やガードレールなどの施設について調べる。	グループ 一斉 個人	自分の安全という意識をもって調べられるように、地区ごとのグループに分かれ、通学路を中心に調べるようにする。学区全体の様子ができるように、学区の安全マップとして表す。調べて分かったことを、かかわり図に付け足しておく。	交通安全を守るための施設の意味や働きが分かる。(知・調べカード、安全マップ、観察)
追究する	見通し2 交通事故から人々を守るための協力について、かかわり図に表す。	個人 一斉 個人	交通事故から人々を守るための協力場面を具体的にイメージしやすいように、「交通事故が起きたら」「交通事故を防ぐため」「交通安全を呼びかけるため」の3つの観点を示す。 交通事故から人々を守るための協力について、自分とのかかわりで明確にできるように、かかわり図に表す活動を取り入れる。思考の過程をとらえることができるように、第1時で表したかかわり図に付け足していく。 個人でかかわり図に表した後、席が隣の子どうしで、3つの観点について意見交換したり確認したりする場を設ける。 調べて分かったことや人々の思いや願い、交通事故から人々を守るための協力について表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を行う。様々な機関や人々の工夫や努力、協力が自分の安	交通安全を守るための協力を、かかわり図に表している。(技・かかわり図)
	交通事故から人々を守るために活動している機関(警察、消防署、役場、病院、交通安全協会、学校など)や人々の工夫や努力、協力		様々な機関や人々の工夫や努力、協力が自分の安全を守っていることをとらえている。(思・かかわり図、観察)	

	との関係で、自分の生活について考える。 交通事故が起こったときの緊急体制や警察の活動、交通安全を守るための活動や施設について、調べて分かったことをまとめる。	一斉 個人	全を守っていることをとらえられるようにする。 かかわり図や調べカードなどをもとにして、分かったことをプリントにまとめ、理解が深まるようにする。 自分なりのまとめ方ができるように、まとめる項目は示すが、まとめ方は自由とする。	交通事故が起こったときの緊急体制や警察の活動、交通安全を守るための活動や施設について、分かりやすくまとめている。 (技・プリント) 交通安全を守るためのさまざまな活動や、人々の工夫や努力、協力が分かる。(知・プリント、観察)
深 め る	見通し3 地域の交通安全のためにできることを、かかわり図に表す。 地域社会との関係で、自分の生活について考える。	個人 一斉	地域に対する自分からのかかわりとして、地域の交通安全のためにできることを主体的に考え、子ども一人一人が自分の考えを明確にできるよう、かかわり図に表す活動を取り入れる。思考の過程をとらえることができるように、第1時、第6時で表したかかわり図に付け足していく。 地域の交通安全のためにできることを表したかかわり図から、自分の生活について考える活動を行う。交通事故から人々を守るための活動と自分の生活には、双方向のかかわりがあることを総合的にとらえられるようにする。	交通事故から人々を守るための活動と自分の生活には、双方向のかかわりがあることを総合的にとらえている。(思・かかわり図、観察)
	地域の交通安全のための実践の準備をする。	グ ル ー プ	子どもの思いや願いを大切に活動になるよう、興味・関心別のグループに分かれる。 子どもの思いや願いを生かした実践ができるよう、環境を整える。	地域社会の一員として交通安全に心がけようとする。(関・ワークシート、観察)
	実践の概要について発表する。 地域の交通安全のために実践する。	グ ル ー プ 一 斉	子どもたちの実践を学級の中だけで終わりにするのではなく、学校全体や地域に向けて発信していく。	

本時の学習

第1時・見通し1

1 ねらい

交通安全への関心を高め、交通事故から人々を守る活動に気付く。

2 準備

教 師：サイレン音のCD、交通事故現場の写真、身近な交通死亡事故に関する資料、交通事故の数の移り変わり(群馬町)を表したグラフ、フラッシュカード、掲示用かかわり図、配布用かかわり図、マジック

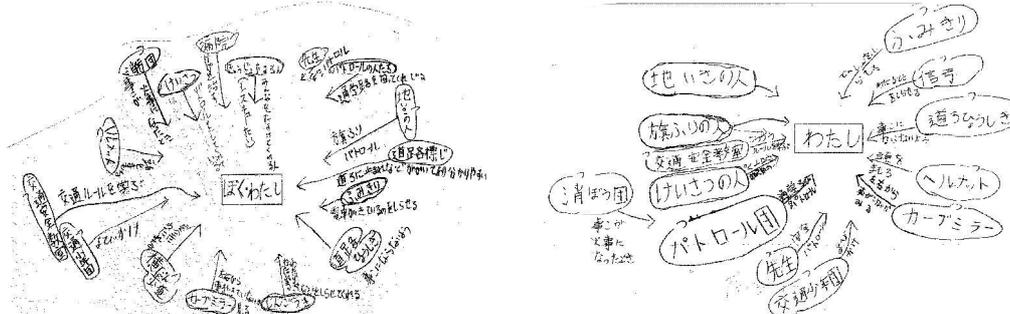
子ども：赤色鉛筆

3 展開

過 程	時 間	学習活動 ・予想される反応	支援及び留意点	評価の視点 (観点・評価方法)
つ	15	1 緊急自動車のサイレン音CDを聞く。 ・いろんな音があるな。 ・どこかで事故や事件が起きたのだろう。 ・事件や事故の時、だれが活動しているのだろう。	様々なサイレンの音から、身近にある危険や、それに取り組んでいる人々の活動に気付くようにする。 交通事故現場を具体的にイメージできるように、写真を示す。	サイレン音や交通事故に関する資料に関心をもち、気付いたことや分かったことを進んで発表
		2 交通事故に関する資料を見て、気	身近なところでも交通事故が増えてい	

か む	分	<p>付いたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の交通事故が増えているね。 ・近くでも、大きな交通事故が起きているね。 ・交通事故は怖いね。 ・自分も交通事故にあうかもしれないね。 <p>3 学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> わたしたちを交通事故から守っているものについて調べよう </div>	<p>ることをとらえられるように、町内の交通事故の数の移り変わりを表したグラフを示す。</p> <p>身近なところにも交通事故の危険があることに気づき、交通事故を、切実な自分の問題としてとらえることができるよう、町内の交通死亡事故例を示す。交通事故や、交通事故から人々を守るための活動について関心を高めた子供たちの意識を、課題に結びつける。</p>	<p>して、交通安全についての関心を高めている。(関・観察)</p>
追 究 す る	15 分	<p>4 交通事故から人々を守るために、どんな機関や人々がどのような活動をしているか、またどんな施設があるかを予想し、かかわり図に表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・警察がパトロールをしているよ。 ・家の人が旗振りをしているよ。 ・通学路にはガードレールがあるよ。 ・ほかにもないかなあ。 	<p>交通事故から人々を守るために活動している機関や人々とその活動、施設について、子ども一人一人が自分とのかかわりで予想し、自分の考えが明確にできるよう、かかわり図に表す活動を取り入れる。</p> <p>掲示用かかわり図を用いて、かかわり図の表し方を分かりやすく説明する。交通事故を自分の問題としてとらえた子どもたちが、自分が安全に生活している理由を考え、そこから予想していく。</p> <p>自分が事故にあってしまった場合についても予想するように助言する。互いの予想を聞き合えるように、発表の場を設ける。発表を聞いて、新たに気付いた機関や人々、施設などを付け足すよう指示する。</p> <p>かかわり図は、第6、8時でも使用する。思考の過程をとらえることができるように、本時に予想した機関や人々、施設などは赤で囲い、今後の記入と区別できるようにしておく。</p>	
深 め る	15 分	<p>5 かかわり図から自分の生活について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろんな人が守ってくれているんだな。 ・自分を守っているものがいろいろあってびっくりした。 ・他にもどんな活動があるだろう。 ・他に、どんな人たちが活動しているのだろう。 	<p>自分の生活はどのようにして成り立っているのか、予想した機関や人々との関係で、自分の生活について考えるよう投げかける。</p> <p>自分の考えをまとめ、明確に表すことができるよう、かかわり図に記述する活動を取り入れる。かかわり図に記述欄を設ける。</p> <p>発表の場を設け、自分の安全な生活を守っている機関や人々、施設の存在に気付いた考えを、学級全体に広めたり、共感したりする。</p> <p>友達の発表を受けて、新たに考えたことなどを付け足すように指示する。</p>	<p>自分の安全が、いろいろな機関や人々、施設によって守られていることに気づき、かかわり図に記述している。(思・かかわり図、観察)</p>

見通し1におけるかかわり図の例



第6時・見通し2

1 ねらい

交通安全から人々を守っている様々な機関や人々の工夫や努力、協力が、自分の安全を守っていることをとらえることができる。

2 準備

教師：掲示用かかわり図

子ども：かかわり図

3 展開

過程	時間	学習活動 ・予想される反応	支援及び留意点	評価の視点 (観点・評価方法)
つかむ	5分	1 これまでの学習を振り返り、本時の学習内容を知る。 ・人々や機関どうしの協力を、かかわり図に表そう。	見学や聞き取り調査などの活動を振り返り、自分たちを交通事故から守っているものが数多くあること、人々が思いや願いに基づいた工夫や努力をしていることを確認する。 本時は、機関や人々の協力をかかわり図に表し、そこから自分の生活について考えることを確認する。	
追究する	30分	2 交通事故から人々を守るための協力について考え、かかわり図に表す。 ・警察と消防署は協力しているね。 ・他にも、協力し合っているところはないかなあ。 ・調べたことをもう一度見直してみよう。	自分とのかかわりが明確になり、子どもの思考が整理されるよう、かかわり図に表す活動を取り入れる。 調べる前と後で、交通事故から人々を守るために活動している機関や人々と、自分の生活との関係がどのように変わってきたか、思考の過程を子ども自身がとらえられるように、第1時のかかわり図に書き足していく。 協力場面や協力内容を具体的にイメージしやすいように、「交通事故が起きたら」「交通事故を防ぐため」「交通安全を呼びかけるため」の3つの観点を示す。 協力しているものどうしを、線でつなぐように指示する。3つの観点ごとに線の種類を変える。 自信をもって発言できるように、各自でかかわり図に表した後、席が隣の子どうしで、意見交換や確認を行う場を設ける。 発表された考えを、掲示してあるつながり表に書き込んでいく。	交通安全を守るための協力を、かかわり図に表している。(技・かかわり図)
深める	10分	3 かかわり図から、自分の生活について考える。 ・こんなにもたくさんの方が自分の安全を守っているのだな。 ・いろんな人が協力し合って自分の安全を守ってくれているのだな。 ・自分が安全に生活できているのは、みんなが様々な活動をしたり、工夫や努力をしたりして支えてくれているからなんだな。 ・支えてくれている人たちに感謝しよう。	自分の生活はどのようにして成り立っているのか、様々な機関や人々の工夫や努力、協力との関係で、自分の生活について考えるよう投げかける。 かかわり図を見て、様々な機関や人々が、それぞれに自分の安全を守っていること、また、協力し合って守っているとらえられるようにする。 自分の考えをまとめ、明確に表せるよう、かかわり図に記述する活動を取り入れる。 発表の場を設け、自分の安全が様々な機関やたくさんの人々の工夫や努力、協力によって守られていることに触れている考えを、学級全体に広める。 友達の発表を受けて、新たに考えたことなどを付け足すよう指示する。 様々な機関やたくさんの人々の工夫や努力、協力が自分の安全な生活を支えていることを確認する。 意図的指名をして、交通安全のために心がけたいことや、地域の安全のためにやっていきたいことなどに触れている考えを取り上げ、第8時につなげておく。	様々な機関や人々の工夫や努力、協力が自分の安全を守っていることをとらえ、かかわり図に記述している。(思・かかわり図、観察)

第8時・見通し3

1 ねらい

地域の交通安全のためにできることを考え、交通事故から人々を守るために活動している機関や人々と自分の生活には、双方向のかかわりがあることをとらえることができる。

2 準備

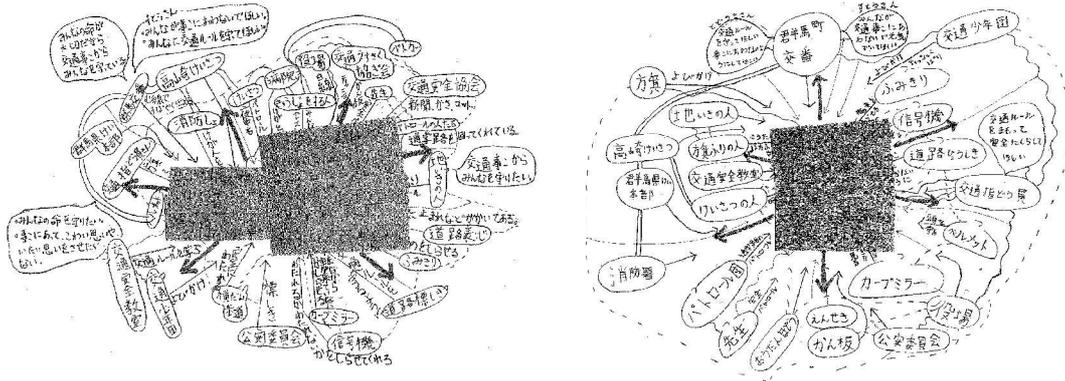
教師：掲示用かかわり図、付箋^{せん}

子ども：かかわり図

3 展開

過程	時間	学習活動 ・予想される反応	支援及び留意点	評価の視点 (観点・評価方法)
つかむ	5分	1 かかわり図を見直し、本時の学習内容を知る。 ・今度は、自分が交通安全のためにできることを考えよう。	様々な機関や人々の工夫や努力、協力によって、自分の生活が守られている一方で、自分からの働きかけがないことに気付けるよう、かかわり図を見直したり、第6時の学習を振り返ったりする。 第6時で、交通安全のために心がけたいことや、地域の安全のためにやっていきたいことなどに触れていた考えを再度紹介し、地域の交通安全のためにできることを考えようとする気持ちを高める。	
追究する	35分	2 地域の交通安全のためにできることを考え、かかわり図に表す。 ・交通ルールをしっかり守ろう。 ・みんなが交通ルールを守るように呼びかけよう。 ・交通安全を呼びかけるポスターを描きたいな。 ・交通安全を呼びかける標語を作ろう。 ・交通安全を呼びかける劇をしよう。 ・交通事故から人々を守るための活動をしている人々に、感謝の気持ちを伝えたいな。	地域に対する自分からのかかわりが明確になり、子どもの思考が整理されるよう、かかわり図に表す活動を取り入れる。 活動だけを表すのではなく、自分の思いや願いも一緒に表せるように、「～のために～をする」という表現の仕方、吹き出しにして表すよう指示する。吹き出しは付箋に書き、かかわり図の「自分の生活」の周りに貼っていくようにする。 交通事故から人々を守るために活動している機関や人々と、自分の生活との関係がどのように変わってきたか、思考の過程を子ども自身がとらえられるように、第1時、第6時のかかわり図に付け足していく。 励ましの言葉をかけたり、考えに共感したりしながら、一人一人の取組を見取っていく。 なかなか考えが浮かばない子には、地域に交通安全を呼びかける方法を考えてみるよう助言する。 各自で考えた後、発表の場を設ける。実現が難しそうなものでも、「交通安全のために」という視点から考えたものであれば、その思いを認めていく。 多様な考えを引き出すように、出された考えを掲示用のかかわり図に書き込んでいく。 発表を聞いて、新たに浮かんだ考えをかかわり図に付け足してよいことを伝える。	
深める	15分	3 かかわり図から、自分の生活について考える。 ・自分たちにもできることがあるね。 ・お互いに協力して、交通安全を守っていかねばいけないね。 ・自分と周りの人たちは、協力し合って生活しているんだね。 ・守ってもらうだけでなく、自分にもできることを進んでしていこう。	自分の安全な生活をどのように作っていったらよいだろうか、と投げかける。 かかわり図を見て、交通事故から人々を守るために活動している機関や人々と自分の生活に、双方向のかかわりがあることをとらえられるようにする。 自分の考えをまとめ、明確に表せるよう、かかわり図に記述する活動を取り入れる。 発表の場を設け、自分の生活が様々な機関や人々に守られており、自分も地域のために働きかけようとする双方向のかかわりに触れている考えを、学級全体に広める。 地域の安全を願う子どもたちの気持ちに共感し、実践への意欲を高める。 友達の発表を受けて、新たに考えたことなどを付け足すよう指示する。始めに記述した自分の考えに付け足しできるよう、欄を設けておく。 出された考えの中からすぐ実践できること、取り組みそうなことを考えさせ、次時につなげる。	交通事故から人々を守るための活動と自分の生活には、双方向のかかわりがあることを総合的にとらえ、かかわり図に記述している。(思・かかわり図、観察)

見通し3におけるかかわり図の例



かかわり図 (A 3)

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">学 習 課 題</div>	名前 _____	
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block; margin: auto;">自 分</div>		
日にち (/) (/) (/)		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">見通し1 記述欄</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">見通し2 記述欄</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">見通し3 記述欄</div> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>